

精神看護学

■構築の考え方

精神看護学では、精神障害がありながら生きる人々が、その人らしい生活を実現するための看護活動だけでなく、看護のあらゆる領域における心の健康維持・増進にかかわる看護活動を学習する。医療の進歩や社会状況の変化に伴い、精神保健医療福祉は施設中心の医療から、地域支援に重点をおいた施策へと大きく転換するに伴い、精神保健にかかわる問題も増加していることから、精神看護の役割は複雑かつ多様化している。そのため、地域生活を支える社会制度および関連する法令を含め、対象の人権を守りつつ、回復（リカバリー）を助けることが必要となる。そして、対象の自立を目指し、段階的に社会の中で生活できるような仕組みの整備に加え、対象の人らしい生活の実現のための支援が、医療の側面からだけでなく地域の保健行政機関や住民等とともに構築されることが求められている。

科目は「精神看護学概論」「精神看護学疾病論」「精神看護学援助論」で構成した。「精神看護学概論」では、心の健康と発達の理解を基盤に精神障害をとらえ、地域で生活している対象と家族を支えるための保健活動を学ぶ。精神看護学の対象は、小児から高齢者まであらゆる発達段階にある。近年は、様々なストレスにより、不安や悩みを抱えながら生活している人々が多く、精神疾患の対象者は増大している。このような現代社会における精神保健医療福祉の動向を概観しながら、精神看護の役割を学ぶ内容とした。精神看護は、患者－看護師関係の構築を前提に、精神障害のある対象の生活を支える役割と機能を担うことを目指すため、人間関係構築のスキルやコミュニケーションスキルについて学ぶ内容とした。「精神看護学疾病論」では、精神障害に伴う病態像とその診断、治療過程を学ぶ内容とした。「精神看護学援助論」では、精神症状の影響を受けながら生活している対象の回復を助ける看護を学ぶ内容とした。そして、「精神看護学概論」で学習した人間関係構築やコミュニケーションスキルをもとに、精神障害のある対象に対する見方や態度について倫理的側面を考えながら、洞察できる力を高められるよう演習を組み込んだ。